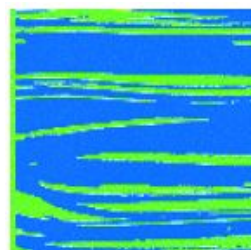


日本行動分析学会ニュースレター

# J-ABA ニュース



2025年夏号 No. 117 (2025年7月22日発行)

発行 一般社団法人日本行動分析学会 理事長 山岸 直基  
〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1 リファレンス内  
URL : <http://www.j-aba.jp/>  
E-mail : [j-aba.office@j-aba.jp](mailto:j-aba.office@j-aba.jp)

---

## 目次

|                                                                                                          |    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| <理事長あいさつ> 山岸 直基 (流通経済大学) .....                                                                           | 2  |
| <法務・総務委員会の報告> ハラスメント防止に向けた取り組みについて 村井 佳比子 (神戸学院大学)・<br>下山 真衣 (信州大学) 井澤 信三 (兵庫教育大学大学院)・久保 尚也 (駒澤大学) ..... | 3  |
| <春の学校開催記> 持続可能な若手会活動 福田 実奈 (京都外国語大学) .....                                                               | 4  |
| <春の学校参加記> 春の学校に参加して 前田 千智 (北海道医療大学心理科学部臨床心理学科) .....                                                     | 7  |
| <春の学校参加記> 僕はなぜ行動分析学を選ぶのか 松川 昌憲 (同志社大学大学院心理学研究科) ...                                                      | 10 |
| <春の学校参加記> 春の学校 参加のすすめ 大石 結衣 (大石クリニック) .....                                                              | 13 |
| <こんな特集しました> 行動主義を見つめなおす 福田 実奈 (京都外国語大学) .....                                                            | 15 |
| 編集後記 .....                                                                                               | 17 |

---

## ＜理事長あいさつ＞

### 山岸 直基（流通経済大学）

2025 年 6 月に開催された理事会において理事長に再任されました。これまで理事、代議員、そして会員のみなさまにご協力いただきありがとうございました。あと 2 年引き続きよろしくお願ひいたします。

これまでの 2 年間は、坂上元理事長、武藤前理事長からの引継ぎ、新しい理事会メンバーとの学会業務についての機能的な連携づくりに力を注いできました。また、学会の活動に多くの方が安心して参加できるように、ダイバーシティ・ポリシー、ハラスメント・ポリシーの策定、ハラスメント防止対策の受付窓口の開設を行ってきました。

さらに学会の会員数が 1000 人を超える規模になり、学会事務の業務量が増えたことに伴い、昨年度の理事会で学会事務委託業者の変更が承認され、2009 年 6 月より本学会の学会事務の委託をしていたリファレンス社から 2025 年 12 月には国際文献社に委託先を変更することになりました。これまで 20 年近くに渡り本学会の事務担当をしていただきましたリファレンス社およびご担当の川原様にはここに記して感謝申し上げます。本学会 HP の URL 等はそのまま維持されますが、学会への問い合わせ窓口等はこれに合わせて変更されますので、ご会員の方々は注意ください。

これまで 2 年間のこれらの取り組みは、あまり外側からは目に付きにくい部分ではありますが、会員の方々が安心して学会の活動に参加していただくためにとても重要な部分です。これらの業務に関わっていただいた、法務委員および総務委員の理事の先生方に感謝いたします。学会事務局の移転については、12 月以降に委託が始まってからも委託業者と学会との間でのスムーズな連携が安定的に行われるようになるまでしばらく時間がかかることが予想されます。

会員の方々にはご不便をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞ暖かい目で見守っていただき、学会運営にご協力いただければ幸いです。

次に研究活動に関連するこれからの方向性について 2 点ほどお話ししたいと思います。まずは若手研究者への支援です。現在、本学会では、日本在住の学生会員の ABAI/SQAB 等の国際学会への参加に対する助成事業を行っています。また若手研究者優秀発表賞が創設され年次大会で選考、表彰がされています。さらに若手会からの要望を受け、学生会員に向けて年次大会発表助成制度が設立されました。また従来より若手会の協力をいただき春の学校（冬の学校）を開催し、若手研究者を中心とした交流の場を提供しています。若手研究者の方々にはこれらの制度をぜひご活用いただき、学会を活性化させたいと考えています。

2 点目は基礎研究と応用研究の連携です。最近の行動分析学界（ワールドとして）は、以前よりも基礎研究と応用研究の連携をするための環境が整ってきた部分があると考えています。本学会では年次大会の学会企画シンポジウム等を中心として、数年来、基礎研究と応用研究の連携を後押しするような企画を行ってきました。今後もこの方向での企画を考えていきたいと考えています。

このような形で学会の目的・趣旨に沿って、会員の行動分析学に関連する研究の支援体制を整えていくことを考えていきます。また会員の皆さまにはご協力をお願いするばかりで恐縮ですが、学会の規模が大きくなったからこそ、理事や代議員だけでなく幅広い会員の皆さまとともにより良い学会を造っていくことをめざしています。

## ＜法務・総務委員会の報告＞

### ハラスメント防止に向けた取り組みについて

村井 佳比子（神戸学院大学）・下山 真衣（信州大学）

井澤 信三（兵庫教育大学大学院）・久保 尚也（駒澤大学）

近年、パワーハラスメントやカスタマーハラスメントなど、多岐にわたるハラスメントが社会問題として頻繁に報じられるようになりました。これは、社会全体においてハラスメントに対する意識が高まっていることの現れでもあります。このようなハラスメントは当然、学術界においても例外ではありません。このような状況を踏まえ、本学会も皆様が安心して学会活動に取り組むことができるよう、総務委員会と法務委員会が共同でハラスメント防止のための体制を整えました。具体的な取り組みは以下の 2 つです。ひとつは、一般社団法人日本行動分析学会ハラスメント防止に関する規程の制定、もうひとつは、ハラスメント相談窓口の設置です。

ハラスメント防止に関する規程は 2024 年 11 月に制定されました。この規程では、制定の目的、各種ハラスメント行為の定義、本学会における禁止行為、処分や相談対応について記載しています。特に、各種ハラスメント行為の定義や禁止行為については具体的に記載し、会員の皆様を含め、本学会に関連する方々が適切に判断できるよう配慮いたしました。この規程は、年次大会や会員集会等の学会活動のみならず、学会の活動の延長とみなされる時間内のハラスメント行為も含む形となっています。ぜひ一読いただければと思います。規程は学会 HP の「学会の概要」「ハラスメント防止対策」ページ内の『ハラスメント防止規程』よりご覧いただけます。

[https://j-aba.jp/data/harassment\\_kitei.pdf](https://j-aba.jp/data/harassment_kitei.pdf)

規程の制定と同時に、ハラスメント防止の取り組みの一環としてハラスメント相談窓口も設置いたしました。ハラスメントに遭遇した被害当事者のみならず、ハラスメント行為を目撃した方など、すべての会員の方から相談を受け付けております。相談窓口についても、総合窓口、女性担当者を希望する窓口、男性担当者を希望する窓口と 3 種の相談窓口を設け、相談しやすい体制を整えました。また、相談者の心構えや基本的な相談受付業務の進め方など、相談対応についても詳細なマニュアルを作成し、相談者のプライバシー保護や不利益な取り扱いの禁止など、安心して相談できる体制をとっています。相談窓口の連絡先や相談の流れについては、学会 HP に掲載しておりますので一度ご確認ください。

<https://j-aba.jp/aboutus/harassment.html>

これらのハラスメント防止のための体制は、本学会がより良い方向へ向かうための基盤となります。しかし、会員の皆様が安心して研究や学会活動に取り組める学会にするためには、これらのハラスメント防止策の存在よりも、互いに尊重しあう行動が当たり前のよう強化される環境が作られることが重要です。ハラスメントのない、魅力的な学会にするためにも、皆様のご協力をお願いいたします。

## ＜春の学校開催記＞

### 持続可能な若手会活動

福田 実奈（京都外国語大学）

日本行動分析学会若手会委員長の福田です。  
2025 年 3 月 1 日（土）・2 日（日）に同志社大学  
今出川キャンパスで春の学校を開催しました。  
このイベントは数年に一度のペースで開催して  
きましたが、前回開催は 2021 年度に Remo と Zoom  
を用いたオンライン形式でした。今回のように  
対面で実施したのは 2018 年度（於 同志社びわ  
こリトリートセンター）が最後でしたので、6  
年ぶりの対面開催です。

開催にあたって、講師の先生方、担当理事の  
先生方には大変お世話になりました。この場を  
借りて御礼申し上げます。また、今回の参加者  
数はオンライン開催時も含めて過去最多の 47  
名でした。学部 1 回生から本学会の理事長まで、  
学生を中心に幅広い世代から参加申し込みがあり  
嬉しい限りです。これも魅力的な講師陣のお  
かげかと存じます。

詳しい内容は参加者の皆さんの参加記に譲る  
として、ここでは記録の意味も込めて二日間の  
プログラムの概要を紹介いたします。改めてラ  
インナップを見ると超豪華プログラムです！

#### 【1 日目】

- ここが難しい！初学者によくある行動  
分析学を学ぶ際のつまずきを解消する  
ための Q&A ワーク（若手会）
- 脳を理解するのに構成概念は必要か：  
NeuroAI の挑戦（京都大学・ATR 脳情報  
研究所 神谷之康先生）
- 認知行動と行動解釈－「時鐘」に見る時  
刻を知る人間行動の始まりと発展（愛知  
大学 樋口義治先生）
- 行動分析学からみた「親密性」という  
相互作用（立命館大学 三田村 仰先生・  
谷 千聖先生）

- 懇親会@サイゼリヤ 今出川駅前店

#### 【2 日目】

- 行動を記述するツールとしての生成 AI  
（大阪電気通信大学 小森政嗣先生）
- 行動の耐えられない重さ：徹底的行動主  
義とその向こう側へ（大阪大学 松井大  
先生）
- 応用行動分析に基づく早期発達支援の  
臨床技術（株式会社エルチェ 近藤鮎子  
先生）

さて、ここでは開催記ということで、運営の  
裏側についてお話ししたいと思います。6 年ぶり  
の対面開催、長い年月ですね。学部 1 回生が修  
士課程を修了するくらいの時間です。こう書く  
とあつという間にも感じますが……。COVID-19  
の影響で、大学の部活やサークルで先輩と後輩  
の間で受け継いでいた伝統やノウハウがすっか  
り消え去ってしまった話はよく聞きますが、若  
手会は幸いにも 6 年前にサポートメンバーとし  
て春の学校の運営を支えていたメンバーが委員  
になっていたタイミングでしたので、ノウハウ  
が消失することなく運営を行うことができました。

今回、まず若手会内で議論になったのは開催  
形式です。前回の対面開催時は大学の研修施設  
で行いましたので、宿泊・食事付きでした。この  
形式ですと、丸二日合宿形式で密に議論ができ  
るメリットがあります。ただし、参加者数を絞  
る必要があることや、直前の参加取りやめには  
キャンセル料が発生すること、その他、部屋割  
りやアレルギーの確認、施設へのバスの手配等、  
それぞれは細々した仕事ですが積み重なると膨  
大な量になる運営の負担を鑑みて、今回は会場  
のみ用意して、宿泊は参加者個人でご用意いた

だく形式にしました。不満が出るかもしれないと心配しておりましたが、開催後アンケートでは、88.2%の方が今回の形式で構わないとのことでした。ただし、この形式に不満を覚えた方はそもそも参加していないという可能性が考えられますので、春の学校に興味のある皆さんに参加してもらえそうな形式を引き続き考えていきたいと思います。

次に開催時期です。本イベントの初回開催時は「冬の学校」という名前で年末に開催されたのですが、2回目以降は「春の学校」として3月に開催しています。ただ、この時期は年度末ということもあり、卒業式や他団体のイベントと重なる可能性が考えられます。運営メンバーが被っているACT Japan とは日程が重ならないよう調整をしたのですが、日程確定後に公認心理師試験の日程が3月2日（日）であることが発表になり、受験者の方にはご参加いただけない日程になってしまいました。こればかりは避け難い事態なのですが、今後も試験がこの時期に行われるようでしたら今後も同じことが起こってしまうかもしれませんので、公認心理師試験日程予想師を募集しています。我こそはと腕に自信のある方は、福田(mina.f.psych@gmail.com)までご連絡ください。

開催場所についても語っておこうと思います。今回は同志社大学の教室を借りることができましたので、運営的にも財政的にもゆとりを持って開催することができました。ただし、これは運営側の話であって、参加者側にとってはどうだったのでしょうか。今回は京都開催ということで、桜や紅葉の時期と比較して観光閑散期とはいえ京都市中心部のホテルの値段はそれなりに高かったのではないかと推察しています。ただ、この状況は東京を中心とする関東でも同様で、時期を問わず宿泊費が高騰しています。開催後アンケートでは、85.3%の方が、開催場所は適切だったと回答していましたが、関東の方が良い、間をとって名古屋、関東と関西の交互開催が良いなど、多様なご意見を頂戴しました。運営支

出の大部分を占めるのが会場費で、ここを抑えられると参加費もうんと安くすることができます。会場をご提供いただける先生がいらっしゃいましたらどうぞ若手会までお知らせください。

また、今回は初の試みとして、1日目終了後の懇親会を大学最寄りのサイゼリヤで行いました。せっかく京都にお越しいただいたので京都らしいお店を、とも考えたのですが、どうしても費用が嵩み、学生の皆さんには参加しにくいお値段になってしまいます。それならいっそのこと、と思い、サイゼリヤの50名収容可能なパーティーールームを貸し切り、学生も気軽に参加可能で講師の先生とも交流可能な場を設けることにいたしました。サイゼリヤにここまで行動分析家が密集したことは今までなかったのではないのでしょうか。各自食べたいもの、飲みたいものを注文し、飲食した分だけ払う明朗会計、グラスワインが税込100円、ミラノ風ドリアが税込300円です。サイゼ懇親会、中々にオススメです。

さて、ここまでお読みくださった方がどれだけいるか分かりませんが、若手会は手を抜いているんじゃないか？委員長にサボリ癖があるのでは（それは確かにそう）？最近の若いもんは……と思われた方もいるかもしれません。今回、運営側のテーマとして掲げていたのが持続可能な若手会活動です。本学会年次大会のHPにも「今後の持続可能な学会運営を見据え「コンパクトな運営」を指向しております。」と記載されておりますので、それに沿った流れと言えるかもしれません。若手会の趣旨に賛同し、熱い志（構成概念）を持って活動に参加しているとはいえ、普段の仕事をこなし、家庭を抱えながら運営を行うのは並大抵のことではありません。今回は、家庭の都合で、子連れで参加した委員もおりました。これも持続可能な若手会活動の一環だと思っていますが、あたたかく迎えてくださった参加者の皆さん、講師の先生方には改めて感謝申し上げます。

今回、運営面のコストはできるだけ省略し、講師・テーマ選定に最も力を入れられるような

体制にいたしました。本来、注力するべきところに注力できたという点では理想の運営と言えるでしょう。ですが、その分、参加者の皆様にはご不便をおかけした点も多かったと推察しております。ここは正直、トレードオフの関係なのですが、両者が納得できるポイントを模索し

つつ、今後も若手会を運営していきたいと考えています。若手会メンバー間の協議や会員の皆様からのご意見を踏まえて、今後も若手会の活動内容を持続可能な方法で更に充実させていく予定です。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

春の学校開始時の様子



春の学校終了時の集合写真



## ＜春の学校参加記＞

### 春の学校に参加して

前田 千智（北海道医療大学心理科学部臨床心理学科）

このたび「日本行動分析学会 春の学校」に参加させていただきました。大学で講義を受けているだけでは得られない経験をできました…。本当にありがとうございます。ありがたいです。各先生方のお話を拝聴して考えたことを書かせていただこうと思います。この会の有益さ、楽しさをお伝えすることができたら嬉しいです。

質問コーナーでは先生方の立場や考え方を問うような質問が聞いていて興味深かったです。私のような学生はありがたいことに、先生方に気軽に質問しやすいですが、行動分析学会に参加されている学会員の皆様は学生でない方も多いと思います。そのような方々は気軽に質問できる機会は中々ないだろうと思うので、このような場が設けられているのはありがたいことだと思います。「わからないとき質問することはできない」と思うより「わからないとき質問することができる」と思える方が勉強していて楽しい気がしているので、素敵なコーナーだと思いました。

神谷先生の話では、主観的な経験を目に見えるものへ翻訳する試みを面白いなと思いました。他人の主観見た過ぎる。幻視や幻聴を後から他人からも見える形に翻訳できうというのが興味を惹かれました。主観的輪郭がイメージの世界であれば線として生まれているという話が面白かったです。脳内でイメージしたものって脳内に映像として表れているのだなというのが…面白い……。

見えるものを純粋に見よう、それを計算しようという考え方が余計な意思が介在しない結果を得られそうで好きです。見ようの段階で躓くところを踏み越えていかっこいいなと思いま

した。

ヒトについてのメカニズムを AI に応用させようとするアプローチへの批判が「見たいように世界を見てる」なのが面白かったです。そうしなければヒトの再現としてじゃない、ならではのメカニズムが生まれるかもしれないと思うとワクワクします。

画像データであること、膨大なデータから傾向を掴むのが目的であることに機械学習のとの親和性の高さを感じて研究ってこうやるのかと思いました。巨人の肩の上に立っている感じがすごくあります。すごい。こういう面白いテーマを自分も見つけたいです。

お話を他の先生方ほどには咀嚼しきれてないのだろうと感じています。強くなりたいです。

樋口先生の話について、このような文学的なアプローチに触れる機会が無かったので、ありがたい経験でした。豊かでした。

昔も今も同じ目的で用いられる道具がある話が、生活は変われど求められるニーズは共通するということを感じて歴史と今が地続きであることに圧倒されました。

経過した時間がイコール価値となるような社会側が時計の必要性をつくっている場合はわかるのですが、はたしてそのような社会になる以前から時計は存在していたのかなと疑問に思っ

て、そのときは時間がわかることはなぜ強化子として機能していたのかなぁと思いました。谷先生と三田村先生の話では、特に親密性の定義を支援に繋がりそうなものでいいなと思いました。その前提に立つと支援が円滑に進むのだろうと感じまして、そういう定義っていいなと思いました。

脆弱な行動をまずアクションする必要はあっ

て、傷ついたりつらくなったりする前提に立つことを面白く感じました。そこをどう乗り越えられるかを大事にする感じ、人と深く関わり合う上で必要なことである気がするので「深い人と人との関わり」に介入する支援としていいなと思いました。

面白く感じる一方で、時と場合と状況によって目標や手段を切り替えて最終目標へと向かっていく支援を自分にできるのかなと思いました。また、カップル双方と適切な距離感を保ち続けること、そのために自分の態度のもつ機能をモニタリングし続ける必要があるということが個人面接より難しそうに感じました。すごい。

セッションを頑張る理由の知覚が難しそうに思いましたが、仲が悪くなくてもそれでもなお関係を改善したいと思って訪れるような 2 人なら大丈夫なのかもとも思いました。

嫌だったことの「やり直しをする」という捉え方が目から鱗でした。それがカウンセリングルームでできるというのもいいなと思いました。ただやり直しの体験は 2 人だけでいたら難しいのだろうと思うので、介入の大事さを感じました。2 人だけでいたらそもそもそのような機会は起こらないし起こっても良い結果に繋がるかは分からないとも思います。

他の名前がつけられた心理療法の考えも取り込んでいたり、個人面接でも必要となるスキルが必要であったりと、お話を聞いていて最終的にどのような臨床をするにしてもカップルセラピーについて学ぶことは大いに意味あることなのだろうと思う内容でした。

小森先生の話について、真っ先に書き残しておきたいのですが、行動分析学は評価されていくべき学派なのだから自信を持ってとのお言葉が自信となりました。自信を持って勉強し、他学派の友人たちと論議していこうと思います。

AI と仕事を助けてくれるよき関係性を築けたらいいなと思いました。小森先生のお話をきっかけに辛いとき気持ちを箇条書きにしてそれをまとめてもらう形で AI を使うようになった

のですが、適切にまとめてくれることを体感できてとても良いです。

テキストベースの AI を使う頻度が多いと思うので、たしかる内容でした。AI の向いているところを考えた上でどう共生するかを考えるのがとても良いと思いました。

固有表現抽出という考え方を面白いと感じました。この方法ならプログラム化できそうとも感じました。

松井先生のお話を聞いて、不安になりました。ここまでの解像度でそれぞれの立場を理解して、それを踏まえて自分はどの立場をとるのか考えて決断するという行いをできる自信がない……と思いました。自力でここまでいける気が到底しないのでありがたい経験でした。不安になりつつ、科学的であるためには必要な行いであるとも感じました。

学習意欲、成長意欲を刺激される内容でした。すごかったです。必要な焦燥感をここで得られたとらえています。そのおかげで参加記を書かせていただくまでの間に勉強でき、それにより当時よりは理解が進んだ気もしています。何か分からないことがあったら板書メモと資料に立ち戻ろうと思います。

近藤先生のお話で、思考の道筋をお教えいただけたのがありがたかったです。私は福田先生が言及されていた ABA ブートキャンプに参加させていただいているのですが、受けていてもなお新しい気づきが多くて本当にすごかったです。

慣性の考え方を面白いと感じました。療育の場面だけの話ではないと感じまして、慣性で非適応的な思考をしているクライアントもいるのではと感じました。面白い考え方を知ることができてありがたいです。

触覚刺激、視界の中になかった刺激の発生が刺激として大きいという話は知っているだけですぐにでも支援が良質になりそうでありありがたい情報と感じました。アルバイトで放デイに行っているのですが、意識して働きたいなと思いま

した。

同時に考えていることの多さに思いを馳せて、療育の先生すごいと思う気持ちが増しました。目を離さないこと、主に視線を見ること、それらの情報をふまえて行動を予測すること、楽しい雰囲気ですること、支援目標を踏まえて適切に導くこと、他にもきっとたくさん同時に色々考えているのだろうなと思うと圧倒されます。

嫌がられているかもしれないサインの楽しい様子が実は回避的な行動だったという話について、形態でなく機能を見るからこそ分かることのように感じました。

それと全体的にお話を聞いていて、同じ情報であっても、ものごとの捉え方、受け取り方が私と違うからこそこのような説明ができるのだろうな、頭よくなりたい。と思いました。すごかったです。強くなりたいです。

行動分析学！！という内容だけでなく。普段積極的に学ぶ機会の少ない機械学習の話まで聞くことができ、とても貴重な経験でした。また自分はまだまだとも感じることができ、これからもおごることなく学びの毎日を送ることができそうです。このたびは貴重な機会をありがとうございました。

## ＜春の学校参加記＞

### 僕はなぜ行動分析学を選ぶのか

松川 昌憲（同志社大学大学院心理学研究科）

私は、2025 年 3 月 1 日、2 日に同志社大学にて開催された日本行動分析学会春の学校に参加いたしました。そこで感じたこと、考えたことをここで書かせていただきます。

#### 「春の学校」に参加した感想とそこで得た問い

今回の春の学校に参加して特に強く感じたことは、AI の躍進についてです。私的出来事の可視化（もはや私的出来事ではなくなる？）に向けた取り組みや煩雑なデータの処理など、AI の活躍は目を見張るものがありました。無論、そのほかにもカップルセラピーや早期発達支援における専門的スキルについても大変勉強になりました。しかし春の学校に参加してから、どうしてもこれからの AI の躍進について考えてしまいます。確かに、カップルの親密性に対する介入や早期発達支援における即時で柔軟な対応は、現在の AI では難しいかもしれません。しかし、このままのスピードで AI の進化が続けば、AI がカップルの微妙な空気を察知でき、子供の突然の行動も予測できるような世界が来るかもしれません。現在でも、論文検索・要約から資料作成まで AI を活用する機会は増えてきています。その波が応用行動分析学の実践場面まで届くのもそう遠くないのかもしれないと思いました。

そこで私が考えた問いは、「人間が行動分析学を学ぶ意味はあるのか」、「応用行動分析学の実践において、AI に代替されない人間の役割はあるのか」ということでした。これは本タイトルにつながるものにもなります。そして、この問いに対し、私は「社会的妥当性」の観点から考えを進めました。ここからは長くなりますが、この問いに向けて文章を続けていきます。

#### 社会正義アプローチと応用行動分析学

現在、心理職の世界では社会正義アプローチという視点、考え方が注目されています（和田他、2024）。その主張は、これまで心理職がしてきた支援は、多数派である社会側の要請に対し無頓着であり、盲目的に要支援者を社会適応の方向に引き寄せていたのではないかと、いうものです。つまりこれは、社会適応を基準に個人の行動変容を推し進めるがあまり、社会そのものが抱える不公平を維持・温存させる社会装置に心理職が陥っているのではないかと、いう内省を意味しています。そして社会正義アプローチとは、要支援者の行動だけではなく、要支援者が生きる社会に対しても変容を要請する心理支援を指します（和田他、2024）。

これに関連する論点は、応用行動分析学の中では「社会的妥当性」として取り上げられてきたかと思います。しかし、社会正義アプローチの観点からこれまでの応用行動分析学の取り組みを見たとき、そこに批判的なまなざしが含まれることは避けられないかもしれません。例えば、応用行動分析学（Cooper et al., 2007 中野訳 2013）（通称ホワイトブック）の第 10 章「応用行動分析研究を設計し評価する」では、社会的妥当性についての説明が書かれています。そこでは、障害者の行動変容の目標として健常者の行動を基準とする旨が、取り立てた注釈もないままに記載されています（p. 403）。このような記述は、社会正義アプローチからすれば、まさに「社会適応に個人を押し込むもの」として認識されるかもしれません。無論、先人の応用行動分析家の問題意識と、それに対する具体的で効果的なアクションへの熱意は尊敬いたしております。ただ日本語で読める応用

行動分析学のバイブル的な書籍において、このような記述があるということは、現代の応用行動分析学の学び手にとって注意すべきことだと考えます。日本語が母語である行動分析家は、自身がどのような行動変容をもたらすのかについて、より再帰的に考え、必要があれば自身の取り組みを脱構築していく必要があるのかもしれませんが。

### 徹底的行動主義の考え方とそれに基づく支援

しかしその一方で、この再帰性や脱構築はまさに、徹底的行動主義が徹底してきた点でもあります。「双方向的分析を徹底する」(山本, 2021) にもあるように、応用行動分析学は支援者自身(自分自身)の行動もその分析対象にします。また、支援者自身の随伴性に沿う形で対象者の行動を無自覚的に修正してしまうことの危険性についても、行動分析学は昔から指摘してきました(出口, 1988)。さらに応用行動分析学では、このような問題意識を踏まえた上での具体的な援助方法も提案しています(望月, 1989; 望月, 1995; 武藤, 2017; 高山・中鹿, 2021)。すなわち哲学の観点から言えば、行動分析学は社会正義アプローチと同様の問題意識を有しており、さらにそれに関連した具体的な支援方法についても、応用行動分析学が既に主張しているということになります。

### 「春の学校」で得た問いに対する応答

以上を踏まえ、行動分析家は徹底的行動主義に従って自身の行動を振り返り、先人の知恵を借りながら「支援とはなにか」についてラディカルに問う必要があると考えます。そして長くなりましたが、この問い続ける姿勢こそが、AIには代替されない「人間にしかできない」行動分析学的な営みではないかと考えます。AIに行動を修正させることはできたとしても、「何を修正すべきなのか」は人間が考えるべき問いだと考えます。

### 僕はなぜ行動分析学を選ぶのか

望月(1989)は、徹底的行動主義の「徹底(radical)」について「研究者自身の行動を含めた実践現場を取り巻く制度・認識について、必要ならばそれに疑義をはさむという意味での文字どおり“ラディカル”な態度をも示しているのである」と述べています。これが現時点での私の本タイトルに対する応答であり、私の「行動分析学を学ぶ」という行動の動機づけオーグメンティングとなっています。

### 文献

- Cooper, J. O., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007). *Applied behavior analysis* (2nd ed.). Hoboken, NJ: Pearson.
- (クーパー J. O・ヘロン, T. E・ヒュワード, W. L・中野 良顯(訳)(2013) 応用行動分析学 明石書店)
- 出口 光(1988). 行動修正のコンテクスト 行動分析学研究, 2, 48-60, [https://doi.org/10.24456/jjba.2.0\\_48](https://doi.org/10.24456/jjba.2.0_48).
- 望月 昭(1989). 福祉実践の方法論としての行動分析学——社会福祉と心理学の新しい関係—— 社会福祉学, 30(2), 64-84, [http://doi.org/10.24469/jssw.30.2\\_64](http://doi.org/10.24469/jssw.30.2_64).
- 望月 昭(1995). 「正の強化」を手段から目的へ 行動分析学研究, 8(1), 4-11, [https://doi.org/10.24456/jjba.8.1\\_4](https://doi.org/10.24456/jjba.8.1_4).
- 武藤 崇(2017). 対人援助学の方法論としての「二人称」の科学 対人援助学研究, 5, 1-12.
- 高山 仁志・中鹿 直樹(2021). 行動的QOLに基づく支援とはどのような実践か 対人援助学研究, 11, 48-59.
- 和田 香織・杉原 保史・井出 智博・蔵岡 智子(2024). 心理支援における社会正義アプローチ——不公平の維持装置とならないために—— 誠信書房.
- 山本 淳一(2021). 徹底的行動主義と応用行動分析学——ヒューマンサービスの科学・技

術の共通プラットフォーム—— 行動分析学  
研究, 35(2), 128-143,  
[https://doi.org/10.24456/jjba.35.2\\_12](https://doi.org/10.24456/jjba.35.2_12)  
8.

## ＜春の学校参加記＞

### 春の学校 参加のすすめ

#### 大石 結衣（大石クリニック）

横浜市にある精神科クリニックで心理士として勤務しております、大石結衣と申します。2025年3月1日-2日に開催された「日本行動分析学会春の学校@同志社大学今出川キャンパス」に参加させていただきました。北海道医療大学の福田先生にお声がけいただき、こちらの参加記を書かせていただくことになりました。貴重な機会をいただきありがとうございます。

参加した経緯としては、講義のラインナップに魅力を感じながらも、仕事の休みに京都まで行って勉強するのか…と渋っていた私に、研究室の先輩が「行くよね？」と半ば強引に(笑)誘ってくださったことがきっかけでした。いつも連れ出してくださりありがとうございます…！学会や学会行事に参加するたび褒めてくださる先生方のおかげでもあります。いつもありがとうございます！間違いなく強化子になっております。

春の学校は学生向けのイベントと伺っておいりましたので、社会人参加者の立ち位置はどんなもんなんだろうか…と思っていました、行ってみると想像より多くの社会人の方がいらっしやって安心しました。大学の講義室で授業を受けるのも久々だったので、ほんの少し大学生に戻った気分になりました。

春の学校への参加は初めてでしたが、二日間で多彩な講義に触れることができ、非常に実り多い時間を過ごすことができました。本当に行ってよかったと思っています。簡単にですが、一つずつ感想を残しておきたいと思います。

最初の土曜限は質疑応答で、参加者の皆さんからの質問に運営の先生方が答えてくださいました。それぞれの疑問に親身になって答えてくださり、質問しやすい雰囲気だったように思

います。特に印象に残っているのは、「行動分析学はロジカルだが、多くの人は人生をストーリーとして認識しているため、行動分析学を共有するためにはいかにストーリーとして伝えるかが大事」という話でした。私が質問者だったわけではないですが、臨床現場にいて常々体感していたことでした。

二限の神谷先生の授業では、NeuroAI と徹底的行動主義の共通点について考え、仮説構成概念がうまく世界を表現することは難しいというお話がありました。神経科学はこれまで少し距離を感じていた分野でしたが、行動分析との接点を見出すことで一気に親近感が湧きました。

三限の樋口先生の授業は、「時間」という我々にとって身近なテーマを軸に、認知や学習に関する人類の理解の変遷をたどりました。文化や歴史と絡めて学べた点がとても印象的でした。

土曜の最後は三田村先生と谷先生によるカップルセラピーについての講義でした。カップルを対象とした臨床の中で、行動分析的な理解と関わり方で親密な相互作用を促すための理論を学ぶことができました。

土曜の講義が終わったあと、キャンパス近くのサイゼリヤで懇親会が行われました。良心的価格で大変ありがたかったです。こういった場面ですと話したかった先生とお話できたり、興味がある分野が同じ方と情報交換ができたりなど、交流が深まるいい機会です。(私は人見知りで口下手なのでものすごくハードルが高いですが…) 勇気を出して三田村先生にお声をかけ、先生の著作である『はじめてまなぶ行動療法』にサインをいただきました！これからも読み込んで臨床に活かします。

日曜は小森先生の講義から始まりました。生

成 AI が臨床の中でどのように実用的に使えるのかを教わりました。個人情報の問題や、うまいプロンプトの仕方がわからず、これまで使うのをできるだけ避けてきましたが、今後は場面を考えて頼れそうです。

二限の松井先生の授業では、行動分析の哲学について歴史を辿りながら面白く丁寧に解説していただきました。今私たちが学んでいる理論が、どのような思考の積み重ねの上に成り立っているのかを再確認することができました。やはり心の哲学は面白くて好きです。

二日間の最後を飾る近藤先生の授業は、実際の映像教材を用いて弁別訓練を体験するというものでした。三項随伴性は手で書くほうが身に付きやすいという話が印象的でした。繰り返し練習して、解説を受けながら精度を高めていくというプロセスを実際に体験することができてよかったです。

春の学校に参加してみて、学生の皆さんにこそ参加してほしいなと思いました。同じ分野で

頑張っている仲間がいること、自分が困ったときに頼れる大人が増える環境というのは使わねば損だと思います。そして、(参加枠があればですが)現場に出ている皆さんにも参加してほしいと思います。私は学生の頃から、「就職して臨床ばかりやっていると、行動分析学という自分の軸からずれていってしまうんじゃないかな…」と考えていたので、現場に出てからもこのような学びの機会があるということは、非常に恵まれていると思います。臨床ばかりではなくて、自分のアカデミックな部分に立ち戻る機会も必要です。私も人に教えられるくらい知識と経験を重ね、いずれは研究成果を行動分析学会で発表できるよう、今後も日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

最後に、春の学校を運営してくださった若手会の先生方、講義をしてくださった先生方、一緒に勉強した参加者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ＜こんな特集しました＞

### 行動主義を見つめなおす

福田 実奈（京都外国語大学）

日本心理学会が発行している「心理学ワールド」という雑誌をご存知でしょうか。心理学の研究者だけでなく、これから心理学を学びたい方や心理学の知見を仕事に活かしたい方など、心理学に興味をもつ全ての方々を対象とした季刊誌です。インターネット上で無料公開されていますので、まだご覧になったことがない方は、「心理学ワールド」で検索していただき、この機会にぜひお読みになってください。

私は現在、心理学ワールドの編集委員を務めています。任期中に特集や小特集などの企画を何度か立ち上げる必要があるのですが、編集委員のお話をいただいた時から決めていたのが「行動主義」特集でした。

心理学ワールド 108 号（2025 年 1 月発行）

【特集】行動主義を見つめなおす——心なき心理学と呼ばれて

<https://psych.or.jp/publication/world108/>

本特集の企画趣旨は以下の通りです。現在、「行動主義」または「行動主義者」という用語が用いられる際、それが具体的にどのような行動主義を指しているのかは必ずしも明確ではない。ある人はワトソンの古典的行動主義を指している可能性があり、またある人はスキナーの徹底的行動主義を指している可能性がある。あるいは、自らが方法論的行動主義者であることに気づかず、そうではない人々のことを単に行動主義者と呼んでいる場合も考えられる。本特集では、「心」に対する自身の学問的立場を明確にすると共に、徹底的行動主義から生まれた社会実装の一形態である応用行動分析学についても再考したい。

企画は編集委員会で何度か議論を重ねる機会をいただきます。この企画の最初のタイトル案は〇〇的行動主義でした。なぜこのようなタイトル案になっていたかという、徹底的行動主義、方法論的行動主義だけでなく、〇〇的行動主義と名前がついている post-Skinner の行動主義の話も入れ込みたかったからです。内容の骨子は当初から大きく変わりませんが、提灯記事にならないようにであるとか、導入部分をより分かりやすく、また現実社会との接点も盛り込むべき、といった多角的なご意見をいただき、企画は当初の段階から大きく洗練されました。

幸い、本特集は多くの読者から好意的な反応を頂戴しました。行動分析学の考え方をより広く伝えたいという一心で出した企画案でしたが、編集委員会での建設的な議論がなければ、これほど読者に響く内容にはならなかったでしょう。全ては読者のために、納得いくまで意見を出し合う委員会の姿勢がありがたかったです。

ここまで、あたかも自分だけの功績であるかのように本特集を語ってきましたが、私が行ったことは企画立案までであり、何より執筆者の先生方のご協力なくして本特集の実現はありませんでした。「行動主義の 110 年—行動主義よりも古い behavior」と題して行動主義宣言より前の「行動」の歴史から紐解いてくださった東京国際大学の高砂 美樹先生、「現代心理学の「心」の見方と徹底的行動主義の「心」の見方」というタイトルで、心理学ワールドの読者を惹きつける熱量でご執筆いただいた明星大学の丹野 貴行先生、「科学的方法論として人の行動の原因に心を措定するほうがよいか？」と科学哲学の観点から深く論じてくださった北海道医療大学の森元 良太先生、そして「応用行動分析学と拓く

新たな人間理解―「心ある」行動主義がもたらす価値」と美しく特集を締め括ってくださった、株式会社エルチェの近藤 鮎子先生にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

私は行動分析学徒の端くれですが、自分にできる数少ない貢献として、行動分析学の普及活動に取り組んでいます。現在、私が所属してい

る国際貢献学部のスローガンは「Be a Changemaker」です。この言葉は学生へのメッセージであると同時に、教員自身もそうあるべきだという思いが込められていると感じています。私自身も、そんな存在になれるでしょうか。これからも一緒に頑張っていきたいと思います。

## 編集後記

2025 年 6 月 7 日に日本行動分析学会 2025 年度社員総会が開催され、理事および監事の継続が決定しました。続く理事会では、理事長ならびに現委員会体制の継続も承認されました。これより J-ABA ニュースも過去 2 年間と同様の運営体制で今後 2 年間を進めてまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

本号の最初の記事は、山岸理事長の再選を受けたご挨拶です。続いて、理事会活動の全体像をより広くご理解いただくため、法務・総務委員会からの活動報告をお届けします。

また、本号では、日本行動分析学会若手会が中心となって開催した「春の学校」の記事を多数掲載しました。本企画を会員の皆さま

に改めてご紹介するとともに、若手研究者や実践者にどのように響いたかをお伝えします。ご寄稿くださった先生方に心より感謝申し上げます。「春の学校」は、企画委員会と渉外委員会の支援のもと、若手会が主催する学会の公認イベントです。そして、理事長をはじめベテラン会員も多数参加しています。今後ご参加を検討される際は、「自分は若手か…」と迷われる必要はありません。どなたでも奮ってご参加ください。

最後の記事は、『心理学ワールド』で刊行された福田先生による行動主義特集のご紹介です。福田先生からお声がけをいただき、私も執筆者として携わりました。本特集が、徹底的行動主義を考える際の一助となれば幸いです。

(丹野貴行)

## J-ABA ニュース編集部よりお願い

- J-ABA ニュースでは、会員の皆様からの記事の投稿を募集しています。学会参加記、研究紹介、研究室紹介、施設・組織紹介、書評、用語についての意見、求人情報、イベントや企画の案内、その他行動分析学の発展に資する記事などが対象となります。投稿にあたっては、Word ファイル形式もしくはテキストファイル形式で、下記の編集部宛に電子メール添付でお送り下さい。
- 掲載の可否は、理事会での審議を経たうえで、編集部で決定します。記事の内容については、公開を前提に、個人情報等の取扱いも含め、各種法令の遵守に十分ご注意ください。また、学術的に明らかに誤った記述、学会活動や行動分析学に全く関係のない記事、営利目的と考えられる記事（著訳書等の紹介を除く）、差別的表現や誹謗中傷が含まれると判断された記事等については、編集部より修正を求める場合や、掲載をお断りする場合があります。J-ABA ニュースにおいて上記に関係する懸念がございましたら、編集部までご相談下さい。
- J-ABA ニュースは、日本行動分析学会のウェブサイトで公開されます。J-ABA ニュースに掲載された記事の著作権は、日本行動分析学会に帰属します。

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1

明星大学心理学研究室 (27-1201)

J-ABA ニュース編集部 丹野 貴行

E-mail: tantantan01@gmail.com